

1. 薬剤部(薬局)創基150年記念誌の発刊にあたって

金沢大学附属病院 教授・薬剤部長 崔 吉道

本年、金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬学類／医薬保健研究域薬学系は創立150年を迎えました。その起源は、慶應3年(1867年)に加賀藩が本学と医学部の起源となった彦三種痘所を卯辰山養生所に移し、製薬所と薬圃を附設して舎密局を置いたこととしています。その卯辰山養生所には、診察局、外科施術局等に並び薬局(薬室)が設置されたと記録されています。つまり、2017年は金沢大学附属病院薬剤部にとっても創基150年の節目の年にあたります。私たちは、諸先輩方が築いてこられた輝かしい伝統を受け継ぎ未来へと繋ぐことの誇りとこの時間を共有できることの喜び、責任を感じています。

本誌の各項を読み進むと諸先輩方が院内外の方々や学内外の多くの方々から愛され叱咤激励を受け、また患者からも学びながらそれぞれ時代に課せられた要請に応えあるいは先取りする形で、国内で三指に入る長い歴史を刻む病院薬剤部としての院内業務を現在の形にまで築きあげてこられたことが見て取れるかと思えます。そして、時代は流れ150年の時を経て2025年問題と呼ばれる大きな課題に直面しています。今や日本は人口減少局面に入り少子超高齢社会を突き進み、医療は病院完結型から地域完結型への転換が求められる中、新しい薬剤部を築いていく必要に迫られています。

社会保障費の増大で従来の医療の存続が危惧される中、全ての世代の人々が安心して持続可能な医療体制とするために、病院は、高度急性期、急性期、回復期、慢性期など一層の機能分化が進められています。薬剤部も機能の異なる施設間や地域の薬局等との連携と協働をさらに深め、地域包括ケアシステムにおける薬剤師のロールモデルを先導していく必要があります。そこで、私たちは以下に記すビジョンを掲げ3つの行動を起こしました。

Vision (2025年の薬剤部の姿)

- ・医療資源の再分配が完了後の高度急性期および一般急性期を担うプロ集団である
- ・新たな医療体制を先導する人材の宝庫であり、そのような人材となることを志す者に開かれた成長の場である
- ・臨床から基礎へ、基礎から臨床へ、課題解決の懸け橋となるリバーストランスレーショナル研究を推進するPharmacist-Scientist集団である

Action

1. 薬剤部ビジョンリーダーチーム (V チーム) の発足
2. 新たな人材育成システム (金沢大学薬剤師スタンダード) の開発
3. 一連の記念事業の計画と実行 (記念誌の編纂、ロゴマークの策定、記念祝賀会の開

催、薬学創立150周年記念事業への支援)

V チームとは、課題解決能力に秀でた学位取得者とその予備軍、高度な専門知識と技能をもちリーダーシップを発揮する志をもつメンバーで構成し、薬剤部の将来ビジョンを共に描き、課題の整理と実行プランの策定、人材育成の中核を担う集団です。

新たな人材育成システムとは、部門としての中長期ビジョンとともに各個人のキャリアプランと人生設計を踏まえつつ、各個人に秘められた可能性を最大限に引き出すことを目的としています。具体的には、診療、教育、研究、専門資格等、社会貢献、コンプライアンスの6つの領域について、その状況を自他ともに把握し今後の行動に生かすためのスプレッドシートを作成しました。さらに、薬剤師の幅広い活動領域においてバランスが取れて優れている「金沢大学薬剤師スタンダード (KUPS)」の到達基準を策定しました。KUPSは、県内外から高い評価を受け渴望される優れた薬剤師ブランドの標準規格となります。これらを基に、各職員とアドバイザーや上司とで面談を重ね、ライフワークバランスを確認し、希望に応じて専門薬剤師、認定薬剤師、学位取得等の支援を行うとともに、公私に渡る悩みごとの解決を図ります。また、研修の一環として機能の異なる施設間（中小病院、地域の保険薬局、PMDA、厚労省、他大学等）との人事交流を進めることで、病院機能の異なる各施設の状況を熟知し、互いの溝を埋め全体を俯瞰することができる人材を育成します。この枠組みの中で、大学病院の薬剤師が地域に出ていくとともに、専門薬剤師、認定薬剤師等の資格や学位の取得を目指す地域の薬剤師を数多く受け入れ強力に支援します。本院薬剤部には、過去5年間に約60件の新たな専門薬剤師、認定薬剤師資格の認定や更新を行うなど、幅広い領域で数多くの資格を持つ薬剤師と、それを育成する人材が育っています。同僚や後輩を育てるノウハウも蓄積しています。この素晴らしい人的、知的財産を生かして、地域の各施設で必要としている資格や人材を、おおむね5年間で育成し、再び各施設で活躍してもらいたいと考えています。この人材育成は、金沢大学医薬保健学域薬学類の教育に関する3つのポリシーに対応した薬学6年制教育の新カリキュラムによる卒前教育とも接続するように、宝町に研究室を置く薬学系臨床教員との密な連携のもとに、2025年の医療体制を見据えた薬局病院統合型の実務実習プログラムと呼応する形で策定・実行しています。

この記念誌は、薬剤部150年の歴史を紐解き先人から学ぶことで、50年後の創基200年を迎えるための活動の礎とすることを目的として編纂しました。最後となりましたが、限られた時間、多くの業務要請の中、記念誌の編纂にエフォートを割いてくれた薬剤部のすべての教職員と、突然の不躰なお願いを聞き入れご寄稿やアドバイスをいただいた先輩各位にこの場をお借りして深い感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。さらに今後とも益々のご指導ご鞭撻をお願いできれば幸いです。